

テーマ別研究発表 | 学校保健体育研究部会：【課題B】体育・スポーツ・健康科学は、学校保健体育の進展にいかに関与できるか

⌚ 2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 🏢 2202教室(教育研究棟 2街区 2階 2202)

[2a804-07] 学校保健体育研究部会【課題B】口頭発表⑤

座長:三上 純(関西大学)

13:30 ~ 13:50

[学校保健体育-B-13]

「心臓の位置」の正答者は大学生が小学6年生よりもかなり少ない（保）

素朴概念の存在が引き起こす心肺蘇生法の指導のためエビデンス

*小浜 明¹、砂田 芽衣²、物部 博文³ (1. 仙台大学、2. 堺市立赤坂台中学校、3. 横浜国立大学)

13:50 ~ 14:10

[学校保健体育-B-14]

胸骨に着目した姿勢の調整が立位姿勢および視点に与える影響（コ）

高校生を対象に

*福岡 小百合¹、寺山 由美²、広野 泰子²、國部 雅大² (1. 筑波大学大学院/追手門学院中・高等学校、2. 筑波大学)

14:10 ~ 14:30

[学校保健体育-B-15]

タグラグビーに特有の「易しさ」の再考（教）

*渡部 颯斗¹、鈴木 秀人² (1. 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科、2. 東京学芸大学大学院教育学研究科)

14:30 ~ 14:50

[学校保健体育-B-16]

タグラグビーのルールをやさしく学習できるゲーム型教材の提案（教,政）

小学校中学年の児童を対象とした授業分析からの検証

*鈴木 利也^{1,2}、佐川 哲也³ (1. 小松市ラグビーフットボール協会、2. 石川県ラグビーフットボール協会、3. 金沢大学)

テーマ別研究発表 | 学校保健体育研究部会：【課題B】体育・スポーツ・健康科学は、学校保健体育の進展にいかに関与できるか

2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 2202教室(教育研究棟 2街区 2階 2202)

[2a804-07] 学校保健体育研究部会【課題B】口頭発表⑤

座長:三上 純(関西大学)

13:30 ~ 13:50

[学校保健体育-B-13] 「心臓の位置」の正答者は大学生が小学6年生よりもかなり少ない(保)

素朴概念の存在が引き起こす心肺蘇生法の指導のためエビデンス

*小浜 明¹、砂田 芽衣²、物部 博文³ (1. 仙台大学、2. 堺市立赤坂台中学校、3. 横浜国立大学)

「胸骨圧迫」とは「からだの外から心臓を圧迫することによって、血液の流れを人工的に作り出す」(東書中学教科書)とある。一方『中学保健体育の研究』(学研指導書)には「心臓は胸の左側にあるように思われているが、基本的には心臓の中心は胸の中央にある。ただし体全体に血液を送らなければならない左心室の方が右心室より大きく心筋も3倍も厚いので、体の正中線に対して左側にその3分の2が偏っている」とある。さらにAEDの役割は「正常な動きをしていない状態(心室細動)にある心臓に電気ショックを与え、正常な動きを取り戻す(除細動)」(学研中学教科書)とある。AEDはAutomated External Defibrillator (De (除く) + fibrillate (細かく不規則な運動をする) + or (器))の頭文字で、日本では自動体外式除細動器と呼ばれる。さて発表者らは、2023年大会において、国立大学の教員養成系学部の小学校教員免許取得予定の1年生で、研究利用の同意が得られた198名を対象に、「胸骨圧迫の位置」「心臓の位置」「AEDの役割」の認識調査を実施した。通過率はそれぞれ順に66%、31%、22%であった。この結果をどのように解釈するか。今回は比較のため、2025年4月、体育系私立大学で、保健体育科教員免許取得予定の3年生で、研究利用の同意が得られた186名を対象に同様の調査を実施した。通過率は65%、29%、32%であった。「胸骨圧迫の位置」は両大学とも2/3が正答であった。「AEDの役割」は体育系私立大学3年生の正答者が有意に多い($p<.05$)。「心臓の位置」「AEDの役割」は、いずれの大学も正答者が低位だった。特に「心臓の位置」は、発表者が2017年3月に小学6年生を対象に実施(倫理審査会：通知27-3)した通過率52%より、両大学とも誤答者が有意に多かった($p<.01$)。

テーマ別研究発表 | 学校保健体育研究部会：【課題B】体育・スポーツ・健康科学は、学校保健体育の進展にいかに関与できるか

📅 2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 🏢 2202教室(教育研究棟 2街区 2階 2202)

[2a804-07] 学校保健体育研究部会【課題B】口頭発表⑤

座長:三上 純(関西大学)

13:50 ~ 14:10

[学校保健体育-B-14] 胸骨に着目した姿勢の調整が立位姿勢および視点に与える影響 (コ)

高校生を対象に

*福岡 小百合¹、寺山 由美²、広野 泰子²、國部 雅大² (1. 筑波大学大学院/追手門学院中・高等学校、2. 筑波大学)

内閣府の調査(2022)によると高校生のインターネット使用率は99.6%、1日の平均利用率は6時間14分であり、近年の高校生は頻繁にIC機器を使用する。1978年より実施されている子どもの「からだの変化」の調査において、2022年はネットゲーム依存症、うつ傾向が挙げられ(野井ら, 2022)、中高生の猫背姿勢の増加も報告されている(加藤ら, 2014)。猫背の姿勢はネガティブな精神を生むとも指摘されており(菅村, 2015)、自らの姿勢に意識を向け、調整する力を育むことは心身の健康を維持するためにも必要だと考えられる。これまでの姿勢研究では、「背骨」に着目して姿勢を調整することの効果が検証されているが、それ以外の部位に着目した研究はない。実際に触れながら視覚的にも確認できる「胸骨」は高校生にも自覚させやすい部位である。本研究は、胸骨に着目した姿勢の調整が立位姿勢および視点に与える影響を明らかにすることを目的とした。高校生105名を対象とし日常の立位時と胸骨に意識を向けて調整を行った立位時の体幹部の姿勢と視点を対応のあるt検定を用いて比較した。有意水準は1%未満とした。姿勢を評価するために、立位時の静止写真を撮影し、第7頸椎、第10胸椎、上後腸骨棘に貼付した反射マーカ―と地面設置した4点の校正点の位置をデジタイズした。校正点を基にした相似変換によって、矢状面における身体各点の位置を算出した。第10胸椎と上後腸骨棘を結ぶ線に対して、第7頸椎と第10胸椎を結ぶ線の前傾は、調整前よりも調整後で有意に低下した。また、視点の位置は、頭部装着型の視線計測装置を用いて視界の映像を記録し、視線データから視点の位置を算出・比較した。その結果、調整前よりも調整後で視点の位置が有意に高くなった。以上の結果から、胸骨に着目した姿勢の調整によって、猫背姿勢が改善され、視点の位置が高くなることが確認された。

テーマ別研究発表 | 学校保健体育研究部会：【課題B】体育・スポーツ・健康科学は、学校保健体育の進展にいかに関与できるか

📅 2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 📍 2202教室(教育研究棟 2街区 2階 2202)

[2a804-07] 学校保健体育研究部会【課題B】口頭発表⑤

座長:三上 純(関西大学)

14:10 ~ 14:30

[学校保健体育-B-15] タグラグビーに特有の「易しさ」の再考 (教)

*渡部 颯斗¹、鈴木 秀人² (1. 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科、2. 東京学芸大学大学院教育学研究科)

一般的にタグラグビーは、インベージョンゲームの中でとりわけ易しいゲームであると言われている。というのも、ドリブルやシュートを要するサッカーやバスケットボールなどの他とは異なり、タグラグビーではボールを持ち抱えたまま自由に走ることができ、そしてインゴール内に走り込んでボールを地面に置くだけで得点することができるからである。では、こうした技術の「易しさ」を根拠にタグラグビーは易しいゲームであると真に言ってしまってもよいのであろうか。

これまで技術の観点からタグラグビーの「易しさ」が論じられる際、児童の意識調査を実施する実証的な検討が複数なされてきた。それらに目を向けてみると、上述したようなタグラグビーの技術を易しいとする児童が学習を重ねる度に増えていく反面、それを易しいとはしない児童も現実にはいたことがわかる。よって、この現実を看過したまま技術の「易しさ」ばかりを根拠にタグラグビーは他よりも易しいゲームであると簡単に言うことはできない、と考えられよう。ならば、技術とは別の観点からタグラグビーの「易しさ」を改めて考えてみなければならない。

他方でタグラグビーに特有の「易しさ」は、ゲームにおいて何が起きているのかという闘ぎ合いの観点からも考察されてきた。だがその方面の議論は、原型であるラグビーフットボールとの相違からその派生であるタグラグビーの「易しさ」を論じることに未だとどまっている。

かかる問題意識に立ち、本研究では、闘ぎ合いの観点からタグラグビーと他のインベージョンゲームとの違いを問い直し、タグラグビーはインベージョンゲームの中でとりわけ易しいゲームであると言えるのか否かを考察する。本研究の試みによって新たに見えてくる、タグラグビーに特有の「易しさ」あるいは「難しさ」について報告する。

テーマ別研究発表 | 学校保健体育研究部会：【課題B】体育・スポーツ・健康科学は、学校保健体育の進展にいかに関与できるか

📅 2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 📍 2202教室(教育研究棟 2街区 2階 2202)

[2a804-07] 学校保健体育研究部会【課題B】口頭発表⑤

座長:三上 純(関西大学)

14:30 ~ 14:50

[学校保健体育-B-16] タグラグビーのルールをやさしく学習できるゲーム型教材の提案（教,政）

小学校中学年の児童を対象とした授業分析からの検証

*鈴木 利也^{1,2}、佐川 哲也³ (1. 小松市ラグビーフットボール協会、2. 石川県ラグビーフットボール協会、3. 金沢大学)

【研究の目的】小学校中学年の児童を対象としたタグラグビーの体育授業において、学習が難しいとされているスローフォワードやオフサイドルールをやさしく学習するためのゲーム型教材を提案すること。

【研究の方法】タグラグビーゲームにおけるプレイヤーの役割を、攻撃／守備、ボールの保持／不保持、守備時のポジションによって分類し、個々の役割における技術を明らかにした。その技術を学習するためにすでに知られている一般的な教材を割り当てたところ、学習が難しいとされているスローフォワードとオフサイドを学習する教材が少ないことが明らかとなった。そこで、スローフォワードとオフサイドを学習する教材を新たに考案し、それを採用した授業を小学校中学年に実施し、その効果を検証した。

【研究の結果】単元を3つの段階に分けて、第1段階はすでに知られている一般的な教材を配置してタグラグビーの基本的な動きを一斉学習で学び、スローフォワードやオフサイドルールを学習する第2段階は新たに考案した「じゃんけん2対1」、「じゃんけん3対3」のゲーム型教材を使って、少人数グループで学び合いを中心としたグループ学習とした。第3段階で5対5のタグラグビーゲームを行い、ゲーム分析を行ったところ、学習が難しいとされているスローフォワードやオフサイドの出現率は先行研究と比較しても同等程度もしくは低い結果となった。